

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	かぶしきがいしゃ まんさくのかい			団体ウェブサイトURL
制作団体名	株式会社 万作の会			https://www.mansaku.co.jp
代表者職・氏名	代表取締役 野村 二郎			
制作団体所在地	〒	112-0014	最寄り駅(バス停)	江戸川橋駅
	東京都文京区関口2-2-7			
電話番号	03-5981-9777			
ふりがな	まんさくのかい			団体ウェブサイトURL
公演団体名	万作の会			https://www.mansaku.co.jp
代表者職・氏名	代表者 野村 万作			
公演団体所在地	〒	制作団体に同じ	最寄り駅(バス停)	制作団体に同じ
	制作団体に同じ			
制作団体 設立年月	1992年3月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 野村二郎 取締役 野村武司・野村若葉子・三藤葉子		(1)団体構成員…狂言師、または修業中の者 (2)加入条件…野村万作が各分野で必要と認めた者 役員4名、狂言師17名、事務員3名	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	小俣 美登里 小山田 智美	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	黒澤 理英	
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	omt@mansaku.co.jp			

<p>制作団体沿革</p>	<p>1992年株式会社として設立。 人間国宝・文化功労者で日本芸術院会員の狂言師・野村万作と、その長男・野村萬斎を中心に、年10回程の主催公演を始め、劇場主催公演の企画制作など、国内外で公演を行い、狂言の普及に努める。</p> <p>主催公演:「万作を観る会」(東京公演1992以前～、名古屋公演1998～) 「狂言ござる乃座」(東京1987～年2回、名古屋1998～、京都2006～) 「野村狂言座」(東京1998～年4回) よこはま「万作・萬斎の会」(横浜2000～) 「狂言ざん座」(東京2006～) 「狂言このあたり乃会」(東京2018～2022)など</p>	
<p>学校等における公演実績</p>	<p>団体発足以来、学校等での公演を積極的に実施。近年も当事業以外に年間40校程を対象に公演を行っている。</p> <p>令和5年度実績・予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区内小学校公演(狂言ワークショップ、狂言「附子」) 28回予定 ・練馬区内小学校公演(狂言ワークショップ、袴狂言「盆山」) 6回予定 ・巣鴨学園鑑賞会(解説、袴狂言「盆山」、狂言「蝸牛」) ・成田高校附属小学校 狂言教室(解説と狂言2番上演予定) ・埼玉県富士見市内小学校 狂言ワークショップ(解説・ワークショップと狂言1番)3回予定 ・日本青少年文化センター主催 足利市内小学校鑑賞会(解説、狂言「柿山伏」「附子」) ・開成中学校 狂言鑑賞会(解説、狂言「蝸牛」「六地藏」) ・大田区内小学校 狂言ワークショップ(解説・ワークショップと狂言1番)1回予定 ・練馬区立大泉学園中学校 狂言鑑賞会(ワークショップ、袴狂言「盆山」、狂言「附子」) 	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成25・27・29年 大阪府の国際障害者交流センター ビッグアイ主催「バリアフリー狂言会」に出演。解説と狂言2番をあらゆるハンディに対する鑑賞サポート付きで上演。 平成26年度本事業で、山梨県立ろう学校にてワークショップ・公演を実施。 令和元年度本事業で、栃木県立盲学校にてワークショップ・公演を実施。 令和4年度本事業で、山梨県立やまびこ支援学校にてワークショップ・公演を実施。 令和5年度本事業で、滋賀県立豊話学校にてワークショップ・公演を実施予定。</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.kodomogejijutsu.go.jp/video/traditional/a09.html</p>	
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID: PW:</p>	<p>なし なし</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 万作の会 】

対象	小学生(低学年)	-	
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	日本の伝統芸能「狂言」を楽しもう ～体験と鑑賞～		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>狂言「盆山」「附子」、狂言「蝸牛」より囃子言葉の掛け合いの場面 ※古典狂言の作品のため、いずれも作者未詳</p> <p>【プログラム構成】 1、解説「狂言を楽しもう」(約20分) 日本の伝統芸能「狂言」について、その歴史や題材・内容の特徴、洗練された豊かな表現技法、舞台や装束、演目の見どころや楽しみ方を解説します。共演演目の復習も行います。 2、狂言「盆山」上演(約15分) (休憩10分) 3、狂言「附子」上演(約20分) 4、共演体験 狂言「蝸牛」より…囃子言葉の掛け合いの場面(約20分) 装束を着けた山伏役が登場し、最後の復習をしてから本番に臨みます。 5、締め挨拶 狂言師が舞台に出て締めの挨拶をします。感想発表・質問があれば対応します。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	いずれも古典狂言。「盆山(ほんさん)」では、ある男が知人の家に盆山(盆の上に風景を作った置物)を盗みに入るが家主に見つかりからかわれ、動物の物真似をする羽目になる。「附子(ぶす)」では、主人に留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者が、猛毒の附子が入っているという桶の中身を怖々探る。共演体験を行う「蝸牛(かぎゅう)」では、主人の命で長寿の薬になる蝸牛(かたつむり)を取りにきた太郎冠者が、山伏を蝸牛と思ひ込み、囃子言葉で浮かれながら主人の家に向かうことになる。		
演目選択理由	いずれも鑑賞を通じて狂言や日本文化の特徴が感じられ、表現する楽しみを理解しやすい演目です。「盆山」には様々な動物の物真似、パントマイム的な動きや見立て等、想像力を働かせて楽しむ、狂言の「型」による表現が多く登場します。「附子」は狂言の代表的な作品で、日常を舞台に人物の喜怒哀楽が豊かに表現される、親しみやすい演目です。「蝸牛」では謡と舞の掛け合いで、日本古来の間やリズムを楽しく体験することができます。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	本公演の「蝸牛」では、児童・生徒はじめ参加者全員に太郎冠者役を受け持ってもらい、その囃子言葉と浮きの所作との掛け合いで山伏役の演者が舞うかたちで共演します。事前ワークショップでは全員で囃子言葉と浮きの所作を稽古し、本公演までの期間も、出来る範囲での復習と、本公演のみ参加する児童・生徒への指導をお願いしております。本公演では最後の復習をしてから本番に臨みます。山伏以外の演者も舞台上で登場し、児童・生徒と共に囃して盛り上げます。先生方もワークショップへ積極的に参加していただき、授業の盛り上げと、復習時の指導に御協力をお願いしております。		
出演者	<p>監修:野村 万作(重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者、日本芸術院会員)</p> <p>出演:石田 幸雄・深田 博治・高野 和憲 (以上、重要無形文化財総合認定保持者) 月崎 晴夫・竹山 悠樹・野村 太郎・岡 聡史・中村 修一・内藤 連・飯田 豪・野村 裕基・石田 淡朗 (以上、能楽協会会員)</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	<p>出演者: 5～6 名</p> <p>スタッフ: 1 名</p> <p>合計: 6～7 名</p>	運搬	<p>積載量: 2 t</p> <p>車長: 5 m</p> <p>台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間			時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	12:00	12:00~13:00	13:30~15:00	10分	15:00~15:30	16:00

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
				3日	3日	
	11月	12月	1月	計	12日	
	2日	2日	2日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	鑑賞者全員
		鑑賞人数目安	50~300人程度(応相談)



(図1) 体育館フロアに舞台を設置しての実施の様子。ステージ前に舞台空間を設置し、緞帳を下ろしてステージ上に楽屋を用意しています。楽屋の設置場所によってステージ位置を検討します。参加人数が100名くらいまでであれば、より間近で演技を体感できるこちらの形がおすすめです。

◆舞台設置に必要な面積：フロア上、幅約15m以上、奥行約10m程度

※本舞台左側の「橋掛かり」前にも客席を作ることが出来ます。



(図2) 体育館ステージ上に舞台を設置しての実施の様子。鏡板(松羽目)のサイズは図1と同じです。本舞台(鏡板の前)から左側に橋掛かりが伸び、その先の舞台袖中に楽屋を用意します。橋掛かりの前には3本の松が置いてあります(舞台セットの一部)。

◆舞台設置に必要な面積：ステージ幅8m以上、奥行5m以上

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



(図3) 能舞台での狂言「附子」上演の様子。学校鑑賞会でも、狂言を上演する際、狂言師は写真の登場人物たちが着ているような本物の「装束」(舞台衣装)を身に付けます。公演準備として、楽屋には着付けのできる土足禁スペースを確保していただくこと、舞台の床面は乾拭きでできるだけ綺麗に掃除していただくことをお願いしております。

【公演団体名 万作の会 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	20名～100名程度が最も効果的ですが、200名くらいまでは対応可能です。
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>標準:90分</p> <p>ワークショップでは、日本の伝統芸能・狂言についての基本的な知識と、その表現技術について学び、鑑賞会(本公演)でプロの狂言師と共演する狂言「蝸牛」の囃子言葉と所作(動き)を身につけることを目標とします。</p> <p>始めに解説と実演で狂言に触れ、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。その後、伝統的な稽古方法にのっとりて狂言の基礎を体験し、実践的な理解を深めます。</p> <p>児童生徒・先生方は、体操服やジャージ等運動しやすい服装(スカートは不可)、靴下を履いた状態(上履きは脱ぐ)での参加をお願いします。(以下は順不同で行います。また、状況や時間をみて休憩をとります)</p> <p>①「狂言」の紹介…その歴史や特徴について解説します。</p> <p>② 実演(袴狂言「蝸牛」など)…お手本も兼ね、代表的な狂言の一部を実演し、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。</p> <p>③ あいさつ…体験＝稽古を始める際に正座でお辞儀をし、学びの姿勢のオンオフを切替えます。</p> <p>④ 狂言のセリフ・所作(動き)の体験…狂言の特徴的なセリフ、身体表現の基本となる構エ・すり足から、実際の狂言に登場する代表的な所作など、狂言ならではの「型」による表現技法を体験し、学びます。</p> <p>※各体験は基本的には全員で行いますが、時にはクラスごとに人数を分けたり、挙手や指名による代表者に前に出してもらったりと、児童・生徒に集中をうながしながら進めます。</p> <p>⑤狂言「蝸牛」の共演場面の稽古…囃子言葉の謡と、謡に合せた「浮き」の型を稽古します。狂言に伝わる日本の伝統的な言葉・リズム、息を合わせての掛け合い、身体表現による発散の楽しさをまとめて体感することができます。</p> <p>⑥締め括り…時間があれば狂言の「笑い」「泣き」といった喜怒哀楽の型の体験し、最後に正座でお辞儀をして締め括ります。</p> <p>⑦さらに時間とご希望があれば、質疑応答を行います。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本公演と内容的につながりを持たせ、誇張をとまなりリアルで大きな身体表現によって観る人の想像力に訴え、簡素な舞台上にさまざまな事象を描いて楽しむ、狂言への理解を事前に体験的に深めて頂くことで、本公演への興味と教育効果をいっそう高めます。 ・挨拶・正座など、日本の伝統的な礼儀作法への理解を深めます。 ・狂言の「型」による表現と稽古を通して、基本の大切さを感じて頂きます。 ・大きな声ではっきりとセリフをいい、大きく体を動かして所作をすることで、自ら体を使って表現することの本質的な魅力を体感して頂ければと存じます。 		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<div data-bbox="411 1597 1023 1843" data-label="Image"> </div> <p>(図4) 三角コーンや平均台で能舞台のかたちを作り、児童・生徒にはその都度見やすく、動きやすいように位置を変えて頂きながら実施します。</p> <p>※参考ページ：万作の会ホームページ (https://www.mansaku.co.jp)</p> <p>★YouTubeチャンネル「野村萬齋@狂言ござる乃座」→ https://www.youtube.com/channel/UCfc2DtNB_qKhj8c0G2qnCOA</p> <p>★YouTubeチャンネル「笑う門には福来たる！野村萬齋の狂言エクササイズ」→ https://www.youtube.com/watch?v=B6TNeqmfEUK</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

万作の会

】

①本事業に対する取り組み姿勢

私ども「万作の会」では狂言の普及活動に長年取り組んでいますが、近年特に力を入れているのが「狂言ワークショップ」公演です。狂言ワークショップでは、650年の歴史を経て洗練されてきた古典芸能「狂言」を、現代を生きる人々に、舞台鑑賞や知識として理解して頂くことはもちろん、狂言師が伝承している狂言の技法(「型」)を自ら体験することで、「表現すること」自体の楽しさを知って頂くことを目的にしています。

自らの感情や感覚を豊かに表現し、他者へ伝える能力は、コミュニケーションの基本となるものです。狂言の「型」は、喩えるならば「言葉」のように、身体や声を使った表現の道具の一つとなり得ます。また狂言は喜劇であり、その芯に、人間の生活や生きること自体を興味深いものとして客観的にとらえ、多少の失敗も味わいとして笑い飛ばしてしまうような、明るく力強い人間賛歌の性格を持っています。「型」を操って自己を表現し、他者を楽しませることができた時の達成感、満足感は格別であり、自己肯定感を高め、さらなる他者へとコミュニケーションを広げることにも繋がります。私どもは、日本の伝統文化の中に、現代社会を生きていく上でも大いに活用し得る、表現方法のヒントがあることをぜひ理解して頂きたいと考えております。

なかでも、次代を担う子供たちに対しこのような公演を体験して頂き、日本の伝統文化・表現の一つとして「狂言」の在り方を伝えることは、大変重要なことです。「万作の会」では、設立以来、公立・私立を問わず小・中・高等学校を中心に、学校狂言鑑賞会を積極的に行ってまいりました。さらに現在では、野村万作が区立文化センターの名誉館長を務める練馬区、野村萬斎が2022年3月まで区立劇場の芸術監督を務めていた世田谷区の公立小学校でも、ワークショップを中心とした学校狂言公演を行っております。

ワークショップと鑑賞公演が一体となった本事業は、狂言の魅力を子供たちに理解して頂くには最も望ましい形の公演形態であり、私どもにとりましても、さらに多くの子供たちに狂言を伝えることができる、大変有効な機会であるととらえております。

コロナ禍においても、stay homeが求められる時こそ、狂言の「型」を使っておうちで少しでも感情の発散をして頂きたいと考え、「万作の会」では野村萬斎を中心にYouTubeで「うちで笑おう」と題した狂言レクチャー映像の配信を行いました。配信内容は、今後実施する狂言ワークショップの予習・復習にも役立てて頂ける内容となっております。平成26年以來の事業参加経験を踏まえ、時代に合わせたかたちを考えながら、より良い体験の機会を子供たちに提供できればと存じます。引き続きぜひ本事業への参加をお認め頂きたく、宜しく願い申し上げます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

- ・学校との連絡窓口は、事務所に常駐の事務職員が担当し、スムーズな対応を心掛けます。情報を共有し複数の職員が対応できるようにすることで、連絡がつきにくい事態を避けるほか、より円滑な実施のためのフォロー体制を整えます。
- ・ワークショップ開催一ヶ月～2週間前までに書面にて準備についてのお願い・ご連絡をし、不明な点については電話・メール等でフォローをさせていただきます。
- ・本公演の準備については、ワークショップの機会を利用し、お打合せをさせていただくほか、お打合せ内容をまとめた資料を開催一ヶ月～2週間前までにお送りします。不明な点や、確認事項については電話・メールでフォローをさせていただきます。

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫